

B委員会 講座・研修（通信制）

（1）「キャリア学習①」

事業名 平成29年度キャリア学習①

日時 平成29年7月5日（水）6～7校時（14：25～16：05）

講師 桑名 暢 氏

《学習内容》

6校時 求人票の見方 / 7校時 履歴書の書き方

求人票の見方

1. 求人票を見る前に考えておくべき条件

①給料（最低ライン）

最低賃金を考えること。20万円なら20万円で探す。大人の意見に左右されない。

②場所（勤務地）

人によって事情は異なる。住んでいる地域から離れられないなどの条件があることもある。

③内容（職種）

特にこれといった希望がなければ、「やりたくないことリスト」を書いてみる。苦手なことは職業になり得ない。そうすれば「やりたいこと」が明確になる。

④休日

例えば土日の休日が良ければそれを条件にすべき。

⇒ これらは、他人ではなく自分で決めること。だれにも邪魔されないし、譲らない。妥協して就職した後、「やっぱり違った」という理由で辞めてしまうことになりかねない。

⇒ ①～④にも優先順位をつける。まずは優先順位1位と2位に条件を絞って職業検索する。そこから自分の希望に合った会社が見つかる。どんな条件でも必ず見つかる考える。

⇒ 1社だけでなく、6社選ぶ。比較する会社があれば、より自分の希望に合った会社が見つかりやすい。

2. 会社の選び方

×大きい会社→大きいからと言って良い会社とは限らない。

×向き・不向きによる判断→分からないし、会社側も面接で重要視していない。

×採用が1人だから諦める→会社側は「どうしても入社したい」という人を採用する。

1人のみの採用としていても、複数名採用することもある。

×通信制の生徒は就職できない？→できる。採用するかどうかは会社が決めること。
 ×不安そうな顔→これまでのことではなく、「これから先のこと」を考えている人を採用したい。過去と付き合うのではなく、現在・未来との付き合いを大切に。
 ×面接の志望動機で「親が（先生が）良いと言っていたから」→すぐ辞める理由になる。すぐ辞める人は、「合わない」を理由にする人が多い。会社のダメなところを探す人の特徴である。

3. 会社訪問の注意点

[基本]

①挨拶

- ▶顔を見て挨拶をする
- ▶「よろしくお願いします」「ありがとうございました」

②身だしなみ

- ▶自分だけで判断せず、誰かにチェックしてもらう

③よく見る・よく聞く

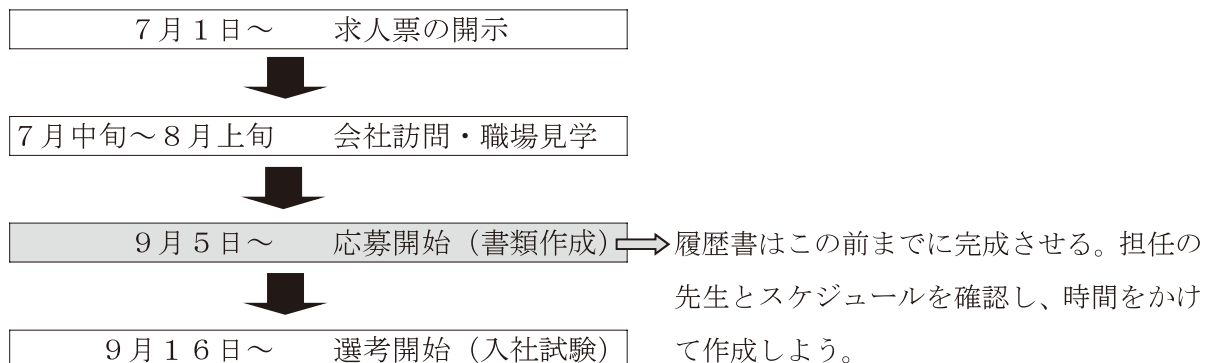
- ▶どんな人材を求めているか
- ▶「会社訪問どうでしたか？」に答えられるようにする

[必ず見てくること]

- ④良いところを探しに行く→良いところを見つけることは、笑顔になるし、表情も良くなる。
 - ⑤どの会社も必ず誰かの役に立っている→良いところを見つけに行くと、会社側もそういう生徒に話しかけてくる（採用したいと思う）。
 - ⑥苦手なことは必ずある→業務内容が全て得意分野というわけではない。
 - ⑦向き・不向きを考えるより、やってみる→会社訪問の意義
- ⇒ 特に、⑤・⑥は書きとめること。履歴書の志望動機にも使える。

履歴書の書き方

(1) 就職活動スケジュール



(2) 各項目について

(高卒は「全国高等学校統一用紙」に記入。一般は市販の履歴書)

①写真・・・履歴書を見たときに一番に目が行くところ。第一印象が決定する。

×スピード写真→安い色味が良い。自分で選ぶ写真が他人受けするわけではない。

○写真屋→スピード写真より300円ほど高いが、第一印象が全く違う。他人が選ぶ写真は、自分で選ぶ写真よりも、髪形や表情が良いということ。

⇒ 写真は時間をかけてきれいに切り貼りすること。貼り方も見られているということ。忘れずに。切り方貼り方が汚ければ印象も悪くなる。

②名前・・・写真の次に目が行くところ。時間をかけて丁寧に書こう。丁寧な方が印象は良い。

③学歴

⇒ 転入・編入はよくいる。(高卒全体の12%程度)

⇒ 引け目を感じないこと。

⇒ 逆に自分の強みにして、前向きにPRする。(自己管理の難しさ・苦労など)

高卒の履歴書には自己PRを書く欄はないので、面接で聞かれたときや最後に話すと良い。

④資格

持っている資格は、級・段にかかわらず全て書く(正式名称で)。○級以上だけ書くという決まりはない。

⑤趣味・特技

⇒ 「特になし」よりは書いたほうがよい。

面接はその人を様々な角度から見たい。面接官は履歴書を材料に話を聞き、その人を知ろうとする。つまり、良いところを探そうとしている。悪いところを探すために面接をしているのではない。弱点や不足する点はあるが、悪いところはないという考えで面接している。

⇒ 細かな点への質問に対し、「言っても分からないから言わない」というスタンスはとらないこと。一生懸命話す姿勢で、相手に合わせて説明しているかどうかは相手に伝わる。

⇒ 面接官は、自分のことなら話してくれるだろうという意図で質問する。嘘・カミングアウト・弱点をべらべら話すのはNG。ただし、日常生活/仕事に支障がある

ことは言うべき（病気など）。通院などが休日で済むなら言わなくともよい。
※会社には社員の病気などを把握する義務がある。そうかといって、それを理由に就職試験を受けさせないのは違法となる。

⑥志望動機

◆良い例

その会社がどう人の役に立っているのか（誰の為に働いているのか）を書く。そのためにも、会社訪問で良い点をメモしておく。会社のHPからも良い点を拾う。

<パターン> ①入社したい理由 } ①と②が逆でもよい
②なぜその職種を選んだのか }

⇒ 志望動機は一人で書かないこと。必ず人の助けを借りて完成させること。志望動機から、人とどう関わっているかが見える。なかなか書けないときは、箇条書きから始める。その会社の良い点が見つからないのならば、受験しない方がよい。「親が良いというので…」を理由にしない。自分の意思で決める。

◆悪い例「～が私は得意なので」

一般的な誰でも書ける動機は意味がない、光らない。

⇒ 以上の点に注意し、清書には最低60分はかけて丁寧に書くこと。短時間で書いたものは相手も分かる。時間をかけていない＝入社する意欲が薄い、という印象になる。

(3) 生徒からの質問

Q. 一般の履歴書に書く場合は、職歴を書く欄があると思うが、アルバイトは書いてよいのか。

A. アルバイトも職歴になるので、全部書きましょう。どのような職を経験してきたかのPRにもなります。成人についてはハローワークの求人は1月から一般・高卒がオープンになるので、市販の履歴書を使う際には、書きたくない項目が入っているものは使わないのがよいでしょう。

【成果と課題】

これから就職に向かう生徒にとって、実状に最も近いお話を聞くことができた。企業の選び方については自分の希望をきちんと考えておくこと、履歴書の書き方については

その企業の良い点をきちんと挙げることなど、採用側の視点からの指導が生徒にとっては印象的だったようだ。目の前に就職活動が迫っている生徒だけでなく、もっと幅広い生徒の参加を促すのが課題である。

(2)「キャリア学習②」

事業名 平成29年度キャリア学習②

日時 平成29年11月1日(水) 6～7校時(14:25～16:05)

講師 桑名 暢 氏

《学習内容》

6校時 今からやるべき進学対策 / 7校時 今からやるべき就職対策

今からやるべき進学対策

1. まず考えてもらいたいこと

《山形県の高校生の進学・就職の割合》

進学：70%

就職：30%



自分はどちらなのかを考えておくことが大切

《大学・短大の場合》

将来なりたいもの、やりたい仕事ははっきりしていなくても大丈夫。選択肢を広げる意味で行く人も多い。入学してから考えてもよい。

《専門学校の場合》

やりたいことが明確になっている人が行く学校。

2. 大学・短大を考えている人へ

○大学・短大は全国で1100校、山形県・宮城県には合わせて20校ほどある。

○何を学ぶか、嫌なものを選ばない。

○自分が何に向いているかは全てやってみないと分からない。それは相手(企業)が決めること。自分はやりたいかやりたくないかで決める。

○大学卒業後は進学した学部に関係のない仕事に就く人も多くいる。

○やりたくないことを書き出す→そこにヒントがある。やりたくないことを外せばやりたいことが見えてくる。

○興味関心から何が勉強しやすいか。

○大学は自分で授業を選択するので、通信制出身の方が大学の仕組みは分かりやすい。

○通信大学のいいところは学費が安く、年上の人が多い。そのため、助けてもらえることも多く、精神的に楽。

3. 奨学金制度について

- 今は奨学金を借りて大学に進学し、就職すると同時に返していく時代。
- 借りた奨学金を返せるだけの給料をもらえるかを調べる→生活力となる
- 「大学進学はいっぱいお金がかかる」という情報を鵜呑みにしない。

今からやるべき就職対策

1. まず考えるべきこと

- 仕事はやってみないと分らないので、向いている・合っている仕事という視点では考えない。
- 適性検査は様々あるが、新卒の場合「主体性」「協調性」「規律性」などの項目の数値が低く出る。
- ◎やりたいか・やりたくないかで考える（適性を考えない）。
- 新卒者は経験値が低いため、周りの情報に染まりやすい。（TV・ネット・大人の情報は鵜呑みにしない。×「向いているんじゃない？」×「～って言われた」）

2. 条件を考える

給 料
勤 務 地
内 容
休 日



※一般論や世間に合わせる必要はない。
※自分が何をどう求めるかで優先順位を考える。＝価値観
※条件は一人で書く！途中で変えてもいい。人に変えられないこと。
条件を変えるなら自分の意思で変えること。
※自分の条件がぶれていると、どんな企業も「ブラック企業」になってしまう。

誰の役に立ちたいかを考える。



★志望動機になる

（その企業でどう役に立てるのか、誰の役に立てるのか、を書く。）

★誰かの役に立つために働く。まず考えよう。

【成果と課題】

講話の中に本校生徒達への温かいメッセージが常にある。生徒達の状況をフォローし、かつ適切にアドバイスして下さる。本校生徒が「やってみよう」という進路意識を高める機会となっていると思われる。

例1： 翌日、合同面接会に参加予定の生徒達に対して「学校名に内定を出す企業もあるかもしれないが、『人を見て判断する会社』・『必要とされる会社』に就職した方がよい。」

例2： よく家族と話し合うとき、意見が合わないこともある。それは、本人の成長が速いために起こることだと思った方がよい。

今年度と来年度の卒業を自覚している生徒の一部のみが参加していた。考えられる方法すべてで参加を促したつもりだが、参加する生徒が少ないのは残念なことであった。次年度卒業の生徒はもちろん、卒業まで2年以上かかる生徒達に自分の進路選択をどう促すかが課題である。

(3) 進路講話

事業名	平成29年度 進路講話
日時	平成29年7月9日(日) 4校時(11:30~12:15)
講師	桑名 暢 氏

1. はじめに

これまで進路指導でがっかりしたことは、「通信制卒業だどこしかない」と進路先を限定する指導がなされていたことであった。「どうせ○○○だから」という先入観を植え付けるような指導が腹立たしかった。怒り出したり、否定したりする先生もいた。生徒の情報源も、家族、友人・知人に限られ、自分の目で確かめていない「噂」に左右される生徒を何人も見てきた。現代はそれに加え、SNSによる情報も溢れ、誰が書いたかもわからないような情報を鵜呑みにして、自分の進路を狭めているように見える。進路先を決めるのは自分である。よって、これからやるべきことの一つとして、「SNSなどの不確かな情報(広告)は見ない」ということを徹底してほしい。正しい情報は、大学や専門学校、企業などの人に直接聞くことである。

2. 条件

○条件を大切にす

就職を考えると、給料・場所・内容・休日の4つの条件をまず設定し、その条件で探す。周りに反対されたからと言って曲げないこと。30万円の給料がほしいならその条件でまずは探す。

3. 事実

・奨学金という選択肢

今は奨学金を借りたり教育ローンを組んだりして進学し、就職したら返すのが当たり前の時代。昔は借金してまで進学するなという考えであった。奨学金を借りている大学生の3分の2は日本学生支援機構（JASSO）の奨学金である。

・どれくらい借りられるのか

12万円/月×48回（4年制大学の場合）＝576万円

12万円/月×24回（短大の場合）＝288万円

まずはこれを計算し、月々どれくらい給料がもらえるところに就職すれば完済できるのかを考えておく。どの大学に行けばどこに就職できてどれくらいの給料がもらえるのかを調べるには、オープンキャンパスに参加して「卒業生は給料がどれくらいの会社に就職しているのか」を聞く、あるいは「求人票」を見せてもらう。つまり、実際の数字を見ること！〇人中〇%の人が就職している、などの情報も得てくるように。ただの見学に終始しない。

・事実＝数値≠SNS情報・周辺人物からの噂

SNSは噂であり、数値ではない。募集要項ではなく、〇〇を卒業していないとダメ、偏差値は〇以上ないとダメ、という「噂」レベルのことには耳を傾けない。実際の数値が事実である。SNS・身近な人からの情報は、「本当かな？」と疑うことが大事。

・進学したいがお金をかけたくない人・働きながら大学に通いたい人⇒通信大学を勧める。一旦就職してからでも進学できる。ただし、働きながら通える専門学校は少ない。

→ 働きながらでも大学に通える。「どうせ…」で自分の選択肢を狭めないこと。

→ 手順は、条件を考える⇒数字を調べる⇒進学するかどうかを決める

※大学によって卒業が難しい通信制もある。例えば慶応大学の通信制は難しいので、頑張っても卒業できないことがある。

※短大からの編入も視野に入れておく。

【成果と課題】

参加しやすい時間帯と時数のためか参加生徒数も多く、進路意識が高い生徒が多くいることが分かった。『進学・就職準備ガイドブック』を使っただけの講話ということもあり、内容に興味関心が高いように見受けられた。今後もこのような講話と個別指導を連動させ、生徒一人ひとりが卒業後の進路を自分で決定していくための指導を行いたい。